

2008年

7月25日(金曜日) - 今こそ職員一人ひとりの力の結集を！職員の皆さん、ご負担をおかけします -

今日は、経済産業省の本省から新エネルギー・省エネルギー部の羽藤部長様（前製造産業局審議官）に遠路当地へ激励にお越しいただいて、企業立地促進等のための「職員全員営業マン」出発式をさせていただきました。羽藤部長には、甘利経済産業大臣のメッセージ（後掲※）もお持ちいただき、企業立地に頑張る当地への格別のご配慮と遠路のご足労を賜り、心からありがとうございます。

現在、織物業、建設業をはじめ本市の産業を巡り厳しい状況に直面している中、今後、市政第一の重要な課題として、産業の発展と雇用の充実に向け、企業立地、企業育成の支援のため、ありとある環境の整備に全力を挙げていくことが欠かせません。

そんな中、これまで、まず①企業立地の「場づくり」として、現在、本市最大規模の工業団地造成の推進のほか、国には昨年、企業立地促進法を新たに制定され、昨年の秋には近畿地区での第一号として「本市全域を国の企業立地促進地域に指定（繊維、機械金属関係）」していただき、場づくりの上に大きな前進をいただきました。また、場づくりに加え②「人づくり」ということで、昨年度まで多大な成果をいただいた国のものづくりの達人事業のほか、京都府には峰山町の日本電産跡地を活用して北部最大級の人材育成拠点「ものづくり産業パーク」を整備していただき本格稼働を今みつつあるところで、人づくりについての環境も次第に整いつつあります。更に、京都工芸繊維大学には、一昨秋、網野町に「京丹後キャンパス」をおいていただき、そこを拠点に本市の事業者との協働やご指導の上にも多大なご貢献をいただいております。そして、そのような環境の中で、本市商工会にも今春から「地域力連携拠点事業」に着手されて、コーディネーターの皆様はじめ地域のあらゆる支援機関の力を総動員され民間企業者の支援に着手されました。

このように、産業雇用の振興・充実に向け、国の力、京都府の力、また大学の力、そして民間の力をはじめ、さまざまな力が今結集されつつあります。今後とも、この結集をより力強いものに、より躍動するものへと厚みを益々重ねていくことが重要であり、今こそ、あらゆる力の結集のため、その求心力を大きくする核の一つとして、市役所全体の総力、千人規模の職員全員のお一人おひとりの力をこの上に総結集していくことが大変有益で、とても大切に思います。

「職員全員営業マン」の取り組みは、正にその大きな一環であり、職員お一人おひとりの力、またつながりの力も含めてお願いして、立地希望・有思惑の企業の情報また地元企業の伸長にかかる情報を集め、企業立地・育成支援の推進を重点的かつ網羅的・全

市的に押し進めていくものです。先進的には、昨年度経済産業省策定の「企業立地に頑張る全国市町村 20 選」のうち、関東の足利市でこういった取り組みを成功させておられます。我々も足利市の取り組みに習いながら進めていきますが、なにぶん初めての取り組みで、荒野を行くような面もあり、それこそ職員一人ひとりの使命感と情熱を松明やカンテラに、着実に切り進んでいきたいと思っております。

あわせて、来春には大宮町で新しい工業団地が開設され、フル稼働ベースでは 100 人以上の新規雇用とともに全体で 400 人の雇用が新たに出てくる見込みです。また、日本電産跡「ものづくり産業パーク」の秋の本格稼働以降は、5 年間で 1000 人単位の研修を積んだ新しい人材が出てきます。こういう動きと総合的に連携・連動しながらこの企業立地・育成の取り組みを本当に実りの多いものにしていきたいと思えます。

何といたっても職員の皆さんには、広く職務とはいえ、それぞれ本来の職務に加えてご負担をお掛けしますが、とても頼もしく、有りがたい限りです。そして何より大切なのは、市民の皆様の懸命な思いと厳しい状況をぜひともみんなで分かち合い、そして、あらゆる力を結集し、心を一つともにして、産業・雇用の充実に向けた取り組みを心を込めて進めてまいります。